

## 市内文化団体、県外文化施設・文化事業関係者ヒアリング結果について

## ■市内文化団体へのヒアリング結果

## 【ハード面について】

- ・大ホールが音楽専用ホールにならなくて良かった。
- ・県民会館との棲み分けはどうか。市は音楽専用ホールでもいいのではないか。
- ・本当に2,000席が必要か。コロナ禍以降、2,000人も集まらないのではないか。海外の有名楽団を呼んだとしても、チケットが高額で。それを買える人しか恩恵を受けないのではないか。
- ・コンクールの全国大会や大規模な公演ができるようになるのはうれしい。
- ・吹奏楽のコンクールでは、県大会や東北大会でも2,000席のホールが求められる。また、定期演奏会で2,000席を埋められる学校もいくつかある。
- ・オーケストラピット設置時に2,000席使えるのが望ましい。
- ・ホール使用料は、使用席数に応じた段階的な料金制度が望ましい。
- ・300～500席の小ホールは地域の団体にとって魅力的な規模。
- ・もぎりスペースやロビーは人が滞留するため、広くしてほしい。
- ・100人以上が同時に楽器の練習ができるような大きさのリハーサル室がほしい。
- ・大きな練習室だけでなく、1人から使える小さな練習室が複数あると良い。
- ・搬入動線は非常に重要。搬入口の広さ、スムーズな動線を確保してほしい。
- ・災害時に休館しないよう、ホールの耐震はしっかりとやってほしい。

## 【施設全体について】

- ・子供たちに良い経験をさせてあげられる施設になってほしい。
- ・楽器をやりたい子供たちに環境を提供することが重要。青年文化センターのパフォーマンス広場のような自由に使える空間があるとよい。
- ・市内の他施設と同じ予約システムにはしないでほしい。なかなか予約が取れず、取り合いになっている。
- ・人が集まるよう、カフェなど飲食できるところがあるとよい。付加価値の高いホールで行う公演はチケットも売りやすい。
- ・国際センター駅から雨にあたらず施設に入れるとよい。
- ・演奏者にも観客にもやさしい、バリアフリーなつくりが望ましい。
- ・県出身の音楽家の功績などを展示してほしい。
- ・人を呼び込む努力が必要。東京でも平日昼にサロンコンサートを実施するなど、様々な取り組みを行っている。
- ・県内や東北などの他団体と連携した様々な活動を、仙台を中心に広げていく拠点にしていきたい。
- ・仙台フィル楽団員の練習風景が見られたり、楽団員や楽器と触れ合えたり、いつ行ってもそんな機会が提供される施設になるとおもしろいし、子供たちにも貴重な経験になるのではないか。
- ・マルホンまきあーとテラス（石巻市）やセヶ浜国際村（セヶ浜町）等とは、メモリアル、震災の面での事業連携が考えられる。連携して公演を重ねることで、より多くの人に波及すると思う。

## ■県外文化施設・文化事業関係者へのヒアリング結果

- ・公演を行うハコだけではなく、関連人材（音楽と社会をつなぐ人材）の育成の場となることが期待される。民間から公募したからといって優れた人材が集まるわけではない。
- ・市民に芸術が与えられる場ではなく、市民が芸術を作っていく、関わっていく場であるべき。専門的でなくても、自分のできることで関わりを持てることが大事。
- ・ホールで公演をするだけではだめなことは明白。ワークショップに限らないが、多様な形の接点が設けられることが大切。
- ・青葉山エリアは自然が豊かな土地。自然の音をひろいながら、音楽というよりもその原点である《音》に注目した活動などが期待できる。それがワークショップになったりしたら大変面白い。
- ・クラシックに対する価値観の違いはあると思うが、新しい顧客層に訴求していくためには映像などは欠かせない。映像のないコンサートに若い層は呼べない。
- ・仙台フィルの事務局や練習場所はしっかり設けるべきである。公演だけの場所になってしまうと課題である。ホールの役割は昔と大きく変わっている。楽団にとっても事務局や練習場所があるだけで、人が集まり、楽団員が交流し、活動も広がる。

- ・仙台には国際コンクール、せんくら、仙台フィルがある。これらの活動の拠点として相応しいホールの機能は極めて大切。
- ・「殿堂」型の施設を設計する人と、非常に親しみやすい開かれた施設を設計する人がいる。後者のような設計者を選定することが大事。とにかく人が常にいる施設であることが大前提。
- ・次世代の育成は一つの柱とするべきだが、幼児や障がい者への対応など、分け隔てない社会包摂的な事業展開は必須。
- ・公設の文化施設は基本的にチケット代金でペイしない構造の施設であり事業である。しかしそれ以上に、人を動かすこと、人が動く構造をつくるのが大事であるならば、どこかが負担をしてつくらなければならない。
- ・子供に多様な文化芸術に触れさせるべきという社会的な要請が高まってきている。子供が楽しめるもの、子供が参加して体験できるものを。
- ・自主事業と貸館では貸館の方が多くものと思うが、自主事業はテーマやコンセプトがしっかりしていれば量の問題ではない。いつも注目されることが大事。
- ・指定管理者制度導入期はサービスの質の向上と効率的提供による経費削減などが想定されてきた。一方で今日の文化施設はサービス提供施設ではなく、市民がどう活動するかに対して何をすべきかを考え、提案し、活動する施設になっている。それはあらかじめ積算できるものではなく、民間を想定し、公募をかける指定管理には向かない。